

# 27R-pm09S

## セオネラミド F の合成研究

○伊藤 耕世<sup>1</sup>, 倉永 健史<sup>1</sup>, 脇本 敏幸<sup>1</sup> (<sup>1</sup>北大院薬)

【目的】セオネラミド F (**1**)は、海綿 *Theonella* sp.より単離された抗真菌ペプチド系天然物である。異常アミノ酸を多数含む大環状ペプチドであり、特徴的な部分構造として分子中央部のヒスチジノアラニン (HAL) による架橋構造がある。さらに従来の抗真菌薬とは異なる作用機序を有するため、新たな創薬シーズ・分子プローブとして期待される。しかし、その全合成および量的供給法は確立されていないため、本研究はその実践的供給を指向した全合成研究を目的とした。

【方法・結果】**1**の全合成に向け、まず構造簡略化体 **2**を設計・合成し、分子主骨格の効率的合成法を確立する。すなわち、Fmoc 固相合成法により合成したペプチドを環化したのちに、推定生合成経路を模倣した HAL 架橋反応の検討を行った。さらに異常アミノ酸によって構成されるビルディングブロックの合成を行い、**1**の全合成経路の確立を試みている。

